

# ワタケンだより

Do our best

秋号  
2020年  
No.58

特集 **ワタコラ** ▶ 特別編 渡辺正高新社長  
渡辺雄二社長退任のごあいさつ

トピックス

沼津工業高校進路ガイダンスに参加  
沼津工業高校建築科に記念品を贈呈  
静岡県から優良工事等表彰受賞  
ハウジング部田辺さん退職のご挨拶



## 桃沢野外活動センター／長泉町

### 社長就任のごあいさつ



代表取締役社長  
渡辺 正高

八月二十五日付で渡辺建設株式会社代表取締役社長に就任しました渡辺正高と申します。

弊社は一九〇七年（明治四十年）、初代渡辺森作が木工修業を終えたのち建築大工工事事業者として独立したことが会社の始まりです。以後、二代目久雄社長、三代目雄二社長と事業を継承し、この度四代目社長として会社の経営を担うことになりました。私は創業者森作の曾孫にあたります。

思えば私の人生の説目には常に大きな出来事が起こります。社会人一年目にはリーマンショックによる経済不況、当社に戻った二〇一一年には東日本大震災、そして現在、世界的規模で猛威を振るうコロナ禍での社長就任となります。

社会は大きく変わろうとしています。特にこのコロナ禍では、働き方や社会構造だけでなく、人生観や生き方にも影響を及ぼしかねない状況です。そしてこ

これらのライフスタイルに大きく寄り添っているのが、我々建設会社です。  
人のライフスタイルが変わっても、建物や道路がなくなるわけではありません。しかし、人の生活に密着している分、常に社会の皆様方が私たちに何を求めているか、そのニーズに対して敏感にならなければならぬと考えますし、それが私の役目でもあると考えます。  
幸せへの挑戦  
変化への対応  
地域との共生  
ここに書いたのは社内でも月に一回、社員全員で唱和する社是の三文です。世界も、日本も、当社も大きく変わろうとしています。しかし大きな変わり目だからこそ、基本に忠実でいたいと思います。この社は長い間当社の社員が大切に、育んできたものです。この社是を改めて念頭に掲げ、ここに掲げられている会社像を実現できるように、誠心誠意頑張っていきたいと思っております。  
末永くお付き合いいただきますよう、これからも何卒宜しくお願い致します。

## 作品 WORKS

日邸／裾野市



N邸／裾野市



## 沼津工業高校 進路ガイダンスに参加



六月二十四日（水）、静岡県立沼津工業高等学校にて同校三年生を対象とした進路ガイダンスが開催され、弊社から渡辺正高専務取締役、建築部の杉山日向副主任が講師を務めました。  
この行事は、同校の三年生を対象に各業種の企業や大学、専門学校等の担当者が卒業後の就業就職について話をするもので、弊社は昨年に引き続きの参加となります。  
当日は、まず渡辺専務が建設や建設業に関する説明、現場監督という仕事についての説明を行い、続いて同校卒業生の杉山副主任が就職活動時のアドバイスや卒業までにやっておいたほうがいいこと、自身の担当している現場での体験談などの話をしました。

## 沼津工業高校建築科に 記念品を贈呈



七月十七日（金）、清水銀行の私募債「すずおかの未来」を活用した記念品の贈呈式が静岡県立沼津工業高校にて行われました。  
これは清水銀行が企画した私募債を活用し、手数料の一部を教育機関に必要な物品を寄贈するために活用する事業です。当社では卒業生が数多く在籍する同校の建築科に実習授業で使用する品を贈呈しました。  
当日は沼津工業高校の成田校長、建築科の渡辺教諭が出席し、渡辺社長からデジタル台はかり、圧縮用型枠、モルタル供試体用三連型枠、専用突棒の四品の目録が手渡されました。  
成田校長からは感謝の言葉とともに「子ども達が地域に貢献することに對する責任を痛感している」とコメントが述べられました。

## 静岡県から 優良工事等表彰受賞



八月七日、静岡市内において「令和二年度静岡県優良建設工事等表彰式」が行われ、弊社で施工した「平成二十九年東宮住宅茶畑団地第一期建替事業（建築工事）」がくらし・環境部長表彰（公営住宅関係工事）優良工事部門で表彰を受けました。授賞理由は「豊富な知識・経験から生み出される優れた発想を活かし、塗装工事では、独自に製作した専用ゲージを用い、工程ごとに必要塗り厚を確認するなど、品質向上の工夫を、各工事工程の随所に、積極的に取り入れ、高品質な県営住宅を完成させた。」というものです。同部門で表彰されたのは県内では当社を含めて二事業者のみです。  
当日は、当該工事を担当した長田友和課長が代表して表彰されました。

## 退職のご挨拶

ハウジング部 田辺 一  
今年六月もちまして、退職させて頂きました。昭和四十八年四月に入社以来、昭和・平成・令和と四十七年間にわたり勤めさせて頂きました。  
入社してまもなく、オイルショックで現場に行くのも先輩と乗り合わせて現場に出動したことや、資材拾いや材料手配をした下積み時代を経て何と自分一人での現場を任されるようになり、満足感はそのまでの苦労を忘れさせてくれる仕事でした。  
また、施工現場事務所の手造り製図台とT定規からドラフターに、そしてCADへ変化しました。見積りも同様、材料を拾い、計算・検算して清書していたのが今は見積ソフトに入力、提出書類も書きからワープロして文書ソフトに変化してきました。現場作業終了後の作業もOA化し工法も進化して残業・休日出勤も少しずつ減りこれから休日も週休二日となると思います。  
入社当時の社屋から前社屋移転時に九十周年記念式典を迎え、百周年の記念式典、現社屋にて百周年と三度の記念式典にも参加させて頂きましたことは、会社の先輩の皆様のご指導と同僚の皆様、協力業者様のお陰だと思っております。お客様にも大変良くして頂き本当に感謝しております。退職後の人生は家族にしたいと思いつつ、最後に、本当に長い間お世話になりました。ありがとうございます。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

【発行】渡辺建設株式会社

〒410-1235 裾野市富沢三九四

電話 〇五五九九二〇〇三〇代

【編集】ワタケンだより編集部

# 『新社長』 渡辺正高 社長

## ～ワタコラ～ ワタケン協力会員のコラム 特別編

ワタケン社員・協力会員の素顔をご本人が紹介するコラム企画、その名もご存知の「ワタコラ」！  
今回のコラムは特別編と題して、今回代表取締役社長に就任しました渡辺正高新社長の経歴・趣味などについて語っていただきます！！

2013年 東京・東大和市の中小企業大学校経営後継者研修を受講。翌年8月渡辺建設に復帰。

この学校で、経理、財務、経営管理、事業計画の策定など、経営に関する様々なことを学びました。正直大学生時代よりも勉強しました。寮生活を送り、この時苦楽を共にした同期とは今でも連絡を取り合っています。

2017年 専務取締役に就任。  
2020年 代表取締役社長に就任。

### 趣味について

次に、新社長の趣味についてご紹介いたします。

#### 【旅行】

国内海外問わず、旅行が大好きです。国内も全都道府県訪問した経験があります。また若いころはバックパッカーとして欧米やアジアなど23の国や地域を旅しました。行ってみたい国は北欧、エジプト、イスラエル、旧ソ連圏の国々です。



#### 【奈良】

あらゆる場所を訪問した僕ですが、奈良だけは別格です。大学時代に奈良美術を勉強したことがきっかけで毎年、時には年内に複数回は奈良を訪問しています。奈良の古寺や静かな自然の中に身を置くと、心が洗われて気持ちが落ち着きます。



#### 【野球】

野球、特にプロ野球のヤクルトのファンです。特別応援している選手はいませんが年齢も近く、学生時代から身近に見ている青木選手の頑張り



はとても励みになります。2015年の優勝時には神宮球場でその瞬間を見届けることができました。

### 新社長の経歴

1982年 8月28日裾野市にて誕生する。

幼少時は家業の影響が、建物の絵をよく書いていました。あまり運動は得意ではなく、小中学校時のマラソン大会はいつもビリでしたが、最後まで頑張って完走したのは今となってはよい思い出です。



2002年 一浪の後、東京の大学に進学、その後大学院まで六年間を過ごす。

初めての東京、はじめての生活、そして裾野の狭い世界しか知らなかった僕に「人種のるつぼ」と形容される多種雑多な友人知人達との出会いは驚きとショックの連続でした。



この時の経験が、現在の人格形成に大きく影響を及ぼしています。

2008年 大学卒業後、安藤建設（現在の安藤ハザマ）に入社。本社の都市開発本部で不動産関連の業務に従事する。

入社直後、リーマンショックが発生し、会社や社会環境が大きく変わる時期に、社会人生活をスタートさせました。主に自社ビルの管理など不動産関連の業務を担当してましたが、海外企業との商談に加わるなど貴重な経験をさせていただきました。

2011年 東日本大震災直後の3月、渡辺建設に入社。

### 社長退任にあたり



代表取締役会長  
渡辺雄二

八月二十五日付で、社長を退任し、会長に就任致しました。引き続き代表権は持ちますが、出来るだけ新社長に決定権を委ね、後方からの支援に重きを置くようにしていく所存です。

昭和五十六年三月、先代社長である父の病氣療養により、二十六歳で社長に就任以来、気付けば既に四十年近くの歳月が流れてしまいました。

もう既に父母も鬼籍に入りました。父の享年（満六十一歳）を超えた時は、いささかの感慨に浸りましたが、自らの最大の使命と受け止めていた創業一〇〇周年、そして続く一一〇周年での新社屋移転新築を終えてからは、何時どのような形で後任にバトンタッチするのか、ひたすら考えていたといつても過言ではありません。

後継社長も、三十代後半となり、大手ゼネコンでの修行、そして当社での実務をこなす中で、少しずつ中小企業経営者としての覚悟が出来てきたような気がします。経験不足は否めませんが、経営トップとして、強い意志を持ち、自ら率先垂範行動する姿勢で、社員と共に、未来に向け突き進んで欲しいと切に希望します。

返ってみることにしましょう。当社は、先代の時代から、社長のトップダウン型ではなく、各組織の長に責任と権限を委ねる組織重視型の経営手法を取り入れていました。各部門長、現場所長には、個性を認めての権限を与える代わりに、それ相応の結果責任を求めるというやり方です。束縛を嫌いがちな建設マンの特性を活かした手法かもしれません。

私の社長時代も、基本的にこの手法を踏襲して来ました。ただし、個性を活かすことの裏腹に、自己解釈での勝手気ままな行動を抑えるため、会社の目指す方向性を、しっかりと定義づけることに腐心しました。

一九九九年、ISO9001を導入することにしました。その手法を活かし、業務を標準化するとともに、組織としての基本的な考え方を明確にすることにしました。そこで先代時代から社内に着用していた「社是」を活かし、それを具体化した「経営理念」、そして「品質方針」を作成し、当社の「理念」として、まとめることが出来ました。会社としての目指すべき軸が出来上がったわけですね。

次に、経営上の生命線でもある原価管理に着目することにしました。残念ながら当時は「井勘定」が当然視されるような時代であり、決算を迎えなければ結果がどうなっているのか、わからないような状態でした。そこで、全社的な「原価企画活動」に取り組むこ

とにしました。営業部門が作成する受注予定工事一覧を基に、各部門での目標完工高、利益を定め、目標到達に向け、鋭意努力する、というものです。その当時の当社にとっては相当難度の高い取り組みでした。

当初は、大手ゼネコン由来のやり方を真似しながら始めましたが、徐々に当社なりの簡略化された会議の設定、簡潔な管理表が出来上がっていききました。ちょうどその頃、ISOの指導コンサルが変わり、この「原価管理活動」での目標管理手法を、ISOの年度品質目標に連動させることが出来るようになりました。そこで、先述の経営数値、更に顧客満足度、安全評価を点数化し、目標管理することにしました。組織としての「理念」作成・共有が、ISOを導入するきっかけでしたが、結果的に全社的な経営目標追及の最高手段となりました。

さて、現場が分散し、一堂に会する機会も少なく、意思疎通が図りづらい現状を改善することにも努めました。就任当初、月一度全社員集会である「月例会」を開催し、情報共有の機会としました。二十一世紀が近づくと、インターネット網が整備され、各現場でも活用が可能となりました。私は、この新たなツールを有効活用する手法として、週一回の社長通信の発信を思いつきました。会社の動き、建設業界の動き、時折は時事ネタなど、社員各位が興味を持ちそうな話題を探し出し、

自分なりのコメント等に加え、書き続けました。今回の社長退任で終了としましたが、満二十年合計一〇〇回ほどの情報発信となりました。これが、二〇〇七年、対外報「ワタケンだより」の発刊につながり、巻頭言として利用出来ました。

長々と自らの経営者人生を振り返ってきました。けっして望んだ人生ではなかったわけですが、運命に身を委ね、その時々最善を尽くした結果が今だと確信しています。振り返ってみればあつという間の四十年。同級生はほぼリタイア。優雅な余生を送っている人間が大半です。最初に述べたとおり、今しばらく新社長の後見を務めながら、建設業協会など与えられた対外的な活動を精力的にこなしていこうと思っています。

これからも、新社長共々宜しくご交誼のほどお願い致します。



富士和ボーリング竣工式にて  
1982.2 27歳当時